

研究課題(テーマ)	クリスマスマーケット in TOYAMA-ドイツの幸せな空間を富山へ -		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	工学部教養教育センター	准教授	金城朱美
研究結果の概要			
・ 遂行内容 令和4年に複数の教養ゼミ(1年生対象)と合同で第1回目の「クリスマスマーケット in TOYAMA」を富山駅南北自由通路で開催した。令和5年度は参加するゼミにトピックゼミ(2年生対象)を加え、キャリア形成も意識してクリスマスマーケットを準備し、2023年12月2日(土)に同会場で第2回目のクリスマスマーケットを開催した。教養ゼミでは前期から準備を始め、まずはプレゼンテーションやグループ作業を通じて、ゼミのメンバー同士が互いに意見を言い合えるような雰囲気づくりに努めつつ、食文化について学んだ。こうしてクリスマスマーケットの運営に関し議論し、担当個所を決めることができた。後期にはそれぞれの担当個所(アヒル釣り、民芸品・和菓子販売、ドイツ菓子・小物販売)の準備をし、当日も運営に携わり、グループ活動がメインだった。トピックゼミでは、前期と後期でメンバーが異なるが、共通のテーマ「富山県の水の文化」を設定し、グループ活動を通じてコミュニケーション力を向上させること、プレゼンテーション力の向上を目指し、県内の水の文化の魅力を自ら知り発信することを目標とした。黒部市生地の清水と宇奈月地区について事前学習し、宇奈月地区巡検のルートを各班で考えて、富山県の魅力的な水の文化をテーマにしたスライドを作成し、クリスマスマーケットのスライドショーに出展した。両ゼミでの取り組みは、後期地域協働授業成果発表会でプレゼンテーションし、ポスター発表にも参加した。 ・ 成果 教養ゼミの学生たちは、自分たちがやるべきこと、自分たちでできることを主体的に考え、グループで協力して行動することを学べたと、学生からの感想から読み取れた。まったく知らない他学科の人とも4月に知り合い頻繁に顔を合わさなくても協力して、大きなイベントを成し遂げることができたという経験は、今後の学生生活にも社会人になってからも役立つに違いない。当日、忙しい中で臨機応変に対応することを学べたという感想や、来場者とコミュニケーションをとることが思っていたよりも楽しかったという意見も多かった。トピックゼミの学生たちはグループ活動を通じて、一つの作品を短時間で完成できた喜びを感じ、主体的に行動することの重要性を学べたことが読み取れた。自分で考えたことを言語化することとコミュニケーション力の向上にも役立ったようであった。富山県の魅力を(再)発見していた様子が大変印象的だった。			
今後の展開			
クリスマスマーケットに参加する学生がこの先も富山県の魅力を発見・発信し、県内就職につながる活動になるよう工夫したい。令和6年度も他ゼミとも協力して、幸せな空間であるドイツのクリスマスマーケットを目指しつつ、地域の方々も含めて駅を行き交う方々とも交流できる県立大学オリジナルのクリスマスマーケットを目指したい。			